
夫婦体験

八意雷光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夫婦体験

【Nコード】

N2306J

【作者名】

八意雷光

【あらすじ】

2人は、エリンを守るため、ボスに向かって助けるのであった！！

おわり。（早

新技？

影

自分「アーツ！」

彼女「何回死ぬんだ・・・w」

自分「えーと・・・893回ぐらい」

彼女「死にすぎwww」

自分「、にしてもモンスターがどんどん強くなってきてね？w」

彼女「そだねー、巨大くもとか、サルファーゴーレムとか出てくる

ねーw」

自分「まさかボスは・・・マサカネーww」

彼女「マサカネーw」

自分「まあ、がんばろうww」

彼女「・・・で、何回死ぬんだww」

自分「今度は2000以上死んで（ry」

彼女「がんばってください。」

自分「がんばり・・・ゴボア！」

彼女「計画通り（ボソ」

自分「なんか言った？^ω^」

彼女「なんもありません、ごめんなさい。」

自分「まあ、そんなことで、俺、何回死ぬんだろ」

そして・・・

ある部屋に殴りこみにきたとき・・・

自分「！！」

彼女「！？」

出たのはクラウソラスだ。

自分「これ・・・やヴぁいんじゃ？」

彼女「ヤバイネー」

自分「ヤベエナシカ目から汗がwww」

彼女「あきらめない！」

自分「がんばりましょう」

2人があきらめかけようとしたとき、

自分「新技だすZ E」

彼女「！？」

自分「いくぜい」

自分「波動k・・・彼女「アホーwwwwwwww」

彼女「リpウじゃないんだからw、はつきりしろwwww」

自分「フヒヒwwwwサーセン」

そして夫、一回死亡

そして、クラウソラスがHPが少なくなったとき、身の姿が変わった・・・

それはまるで、キホルのような羽を持ち、剣が50本も、60本も増えていく。まるで地獄だ。

自分「何だあれ・・・」

彼女「勝てるわけない・・・」

自分「ハアアアアア」

彼女「・・・？どうした？」

ドガーン

彼女「こ・・・これは・・・」

夫は、半分の神だ。^{「ヘル」}

その威力は、相当だ。

自分「スピアオブライト！！！」

それは、ものすごい威力だった・・・地面を揺るがせた・・・

クラウソラス「グギャアアアアアアアア」

クラウソラスは撃沈した。それに変わり、夫も消えていった。彼女

は泣き叫んだ

彼女「ねえ・・・帰ってよ。帰ってきてよ、ねえ！」

彼女「。。。決めたよ・・・最後まで進めて夫を助けるんだ！」

そして彼女は夫を助けるため・・・エリンを守る決意をした。

彼女「夫！まってね！」

新技？（後書き）

なんか文字少ないな・・・Wまあ、いいや・・・W

ソロ（前書き）

えー、お正月なので1日でうpしました。

ソロ

ソロで始めた彼女、愛する旦那を助けに影へ、どんな敵、やられようが、がんばっている。

彼女「どうしてこんなになっただんたろ；w；」

と、泣く彼女、

彼女「半神化なりたひ（違）」

???「その力を貴方に授けましょう」

彼女「!？」

???「ワタシは、モリアンだ。」

彼女「ちよっ、ちよちよちよ」

モリアン「あわてなくて良い・・・w」

彼女「で、どんな力や、この脱出を？」

モリアン「それは・・・貴方が悲しいことになるでしょう・・・」

彼女「？」

モリアン「貴方の旦那が、ドッペルゲンカーになってしまいました。それで、旦那が、そのドッペルゲンカーと戦ってます。」

彼女「そのドッペルゲンカーは・・・中身は・・・」

モリアン「もちろん、貴方の旦那です。でも、いい仲間が2人ついています。」

彼女「誰ですか？」

モリアン「ケイト、レイモアさんです。」

彼女「あのうわさの錬金術師の？」

モリアン「はい。それに半神化で。」

彼女「f m・・・」

モリアン「・・・リアクションは？」

彼女「なんだってええええ!？」

モリアン「よし。」

彼女「ありがとうございます。」

モリアン「でわ、そこにたつててください。」

彼女「はい。」

黒い影のようなのが彼女の体を引きずった。

彼女「うわああああああああ」

???「ククク、よく引つかかったな」

彼女「だれだっ！」

???「・・・モルガントだ。」

彼女「モルガント・・・あの、伝説の？」

モルガント「ククク、そうだ。」

モルガント「ルエリ。この小娘をあの夫のいる奥に連れて行け。」

ルエリ「はい。」

ルエリ「おい、行くぞ。」

彼女「いやだっ！」

ルエリ「ならば力ずくだっ！」

彼女「っ早い！」

そして奥に閉じ込められた。

ルエリ「これからダークナイトにする。」

彼女「なっ・・・！うわああああああ」

自分「ふう、やったな、ケイ、レイモア。」

ケイ「楽勝だったZ E」

自分「ケイ、そんなテンションじゃなかっただろ、今まで「やんべつ、気持ちわ・・・ゲボエ！」って言ってたんじゃない？」

ケイ「アー、アー、聞こえない！」

レイモア「ハハハ、とにかく、奥に行きましょう。」

自分「まあ、行こう・・・。」

奥

自分「・・・なっ！」

その光景は、黒くなって白いはねがバサバサと、落ちていく。

彼女「・・・」

自分「おい・・・どうしたんだ・・・」

ドーン

それはスピアオブライイトの倍だ。

自分「ケイ！レイモア！」

自分「これをやったのはだれだ！」

モワーン

そこには2人の影が。

キホール「クツクツク、まず、雑魚が増えたか。やれ、モルガント。」

「

モルガント「はっ。」

自分はカウンターをした。

モルガント「ぐっ・・・！」

自分「かかって来い！」

自分は半神化をした。だが

彼女「・・・！」

自分「くはっ！」

半神化を解かれた。

そこで自分はオルゴールを取り出した。

彼女「・・・！」

彼女「グワア・・・アアアアアアアアアアアア」

中身はドッペルゲンカーだった。

続く。
(え

ソロ（後書き）

はい、新登場盛りだくさん。

次のupは1月4日に予定です。

戦い（前書き）

投稿遅れたあああああああ

戦い

あ
ら
す
じ
〜
〜
〜
〜

自分が戦っているとき急にグラスギブネンが出る。それのみ。だっけ？

「グラスギブネン、なんだよ、俺がキャラ悪いの？ねえ、いじめなの？イジメヨクナイヤイ」

自分「いや、なんでこんなところにお前が……」

グラスギブネン「お前つてなんだよお前つて！酷くない？ねえ！」

グラスギブネン「お前っていうのやめろ――――！！」

グラスギブネン「うっわ、ひでえ
WWWWWW」

ついに戦いのとき……

自分「ははは、行けーピカチ。ウー！」

夫はグラスギブネンじゃなくてゲームと戦っていた。(・ω・)

シャキーン

自分「グハッ、負けたっ……！つええ」

「おいしいおいしいおいしいおいしいおいしいおいしいおいしいおいしいおいしいおいしい！？」

グラスギブネン「なんでだよ、なぜポ●モンだ！？意味わからない！俺の扱いひでえ！！」

2人「いまだっ！隙ありiiiiiiiiiiii」

グラスギブネン「グハー」

グラスギブネンはあっという間に倒れた。

2人「弱くね？ねえ、G1のボスのくせに。クソよわくね？ねえ、こいつG1失格じゃね？」

自分「よし、次」

グラスギブネンはあっさりスルー。もうグラスギブネンは忘れてね。

自分「よし、ここだ。」

そこはアルベイダンジョンだった。

彼女「ねえ、ここさ、敵がやばいんじゃない？死ぬくない？普通に。」

自分「そこは気にしない。レッツゴー」

彼女「……ゴ」

1 部屋目

自分「ぐべあああああつ!？」

彼女「ぶふっ」

敵はジャイアントワームとバグベアだ。

自分「マジかよwwwwマジだねwwwスゴいねエエwww
死ぬねえwww」

彼女「だから無理っていったじゃん・・・W」

それはなんとかクリアし、**3層**

自分「らしくしょーまじらしくしょー」

彼女「らくしよー」

敵は白くも、灰色ねずみだ。

部屋はいつもそのモンスターだ。そして。

自分「ついにボス。グヘッ」

彼女「なに、このモンスター怖い」

敵は、オーガ戦士6体、ゴーレム2体、ブラックサキュバスだ。

彼女「あ、ブラサキュだけやる」

自分「え？いいけど、俺死ぬよ？」

そして戦いの時。

自分「負けられない戦いがここに……ある！」

朝

自分「オラオラオラオラオラ！」

まだ戦っていた。

彼女「おせw
w
w
w
w
w
w
w
w」

自分「おわったあああああああああイエアアアア
アアアアアアアアア」

と勝ちと思ってたとき。

ボ
ワ
ア
ン

自分「ん？」

彼女「ん？」

モンスター：ジャイアントライトニングスプライト。ジャイアント
インプ

自分「ホワアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アア」

彼女「落ち着けwww」

自分「まるでフィアードにいるみたい」

自分「てか、ここなに、すげーおそろしいじゃん、先輩ぐらいにな
りそうじゃん」

まあ、これはやめといて、ゲームだっ！

「テレレッテーン」

こんどはドラクエ。

そして後ろに殺気。

戦い（後書き）

皆さん。グラスギブネンはお忘れになりましたか。
忘れなかった人は負けです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2306j/>

夫婦体験

2010年12月13日23時34分発行